



## 『スパークス 日本株長期投資のすすめ』

スパークスの株式投資、株式市場などに対する見方を紹介するコラムです。

### 第9号(2008年5月2日)

#### 「新しい外国人投資家の台頭」

今後、国際優良企業へと成長する可能性が高い新・国際優良企業は、今後新たに台頭する外国人投資家の投資対象になる可能性が高いと考えております。

従来、外国人投資家としてイメージされるのは、欧米の年金基金や金融機関、そしてヘッジ・ファンド等であったと思います。しかし近年、資源価格の高騰や新興国の経済成長により、従来の欧米の投資家以外の新たな外国人投資家が台頭してきております。

その代表格がソブリン・ウェルス・ファンド（SWF）と呼ばれる政府系の資金を運用する基金です。特に中東の産油国やシンガポール、また中国等が有名です。これらSWFの規模は、正確な額は未公表のところが多いのですが、一説には300兆円を超える規模があり、10年後には1,500兆円を超える規模にまで拡大すると言われております。

現在、各国のSWFはその多くを米ドル建ての資産で運用していると推測され、円建て資産の比率は、総資産の約2%程度に過ぎないのではないかと考えております。現在世界の資産に占める円建て資産の比率は10~15%程度と言われており、単純に円建て資産への投資比率を市場平均程度に引き上げるだけでも、総資産の10%程度の組入れの引き上げが必要になりますので、今現在の資産規模で考えても30兆円、10年後には150兆円もの買いが日本に流入する可能性があるのです。

もちろん円建ての資産といっても、株式だけでなく、債券や不動産等もありますので、全てが株式を買う訳ではありませんが、もし、現実には資金が流入してきた場合は、株式市場に与えるインパクトは相当に大きくなるのは容易に想像できます。

では、新たに台頭する外国人投資家はどんな銘柄を買うのでしょうか。やはり、海外で活躍していて、外国人でも会社の名前を耳にしたことがある銘柄にまず注目して買ってくる可能性が高いのではないのでしょうか。その際、海外で大きく売上・利益が拡大していると期待される、新・国際優良企業は、まさに新たな外国人投資家の投資対象になると考えられるのです。

(注) 本コラムは、マネックス証券Web-Site「マネックスラウンジ」の「マネックスメール」に掲載されている「スパークス・アセット・マネジメントの『SPARX Way』」をもとにスパークスが作成したものであります。



本資料は、スパークス・アセット・マネジメントが情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。スパークス・アセット・マネジメントとその関連会社は、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述の正確性、完全性、妥当性等を保証するものではなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなんら補償するものではありません。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。また、過去の実績に関する数値等は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料の著作権はスパークス・アセット・マネジメントに属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用または複製することを禁じます。